

日本語指導 ワークショップ

井上 恵子

1. ねらい

児童生徒の発達段階と日本語力に応じた「日本語指導略案」を作成する。

2. グループ及び課題

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
A-1 7人 A-2 7人	初期指導	小学生 下学年	『にほんごをまなぼう』 5「きをつけて」
B 9人	初期指導	小学生 上学年	『ひろこさんのたのしいにほんご1』 36「お母さんはどこにいますか」
C 7人	教科学習へ向けての 指導（国語科）	小学生	教育出版4年 「花をみつける手がかり」
D 2人	教科学習へ向けての 指導（社会科）	小学生	東京書籍6年 「世界の未来と日本の役割」
E 6人	教科学習へ向けての 指導（算数科）	小学生	啓林館1年 「おいほう すくないほう」
F 4人	教科学習へ向けての 指導（理科）	小学生	大日本書籍3年 「じしゃくのふしぎをしらべよう」
G 7人	初期指導	中学生	『こどものにほんご1』 9「さんかん日」
H 9人	教科学習へ向けての 指導（国語科）	中学生	教育出版1年 「言葉の上達は競技を上達させる」

3. ワークショップの進め方

時 間	活 動 内 容
11:50～12:00	1. ワークショップの進め方についての説明を聞く。 ・ねらい ・グループ分け ・課題 ・時間配分 ・指導略案の作成方法及び留意点 ・発表方法 ・パソコン
13:00～15:00	1. グループに分かれて、課題についての指導略案を作成する。 (パソコンの「指導略案の形式」に書き入れる。) 2. 発表の準備をする。
15:10～16:10	1. グループ発表をする。 6分×9グループ (講評)

4. 指導略案作成上の留意点

- (1) 指導時間は小学校45分、中学校50分とする。
- (2) なるべく、4技能(聞く・話す・読む・書く)を入れる。
- (3) 過程の欄の()に時配を入れる。
- (4) 必要に応じて、日本語力に合わせて「リライト教材」を作成する。
- (5) 必要に応じて、補助資料として「翻訳教材」を活用する。
- (6) 必要に応じて、補助者との連携を図り、補助内容を明記する。
- (7) より分かりやすく、そして楽しく指導するための「教材・教具」を作成し、提示の仕方等、工夫する。

<用意してある用具等>

- ・模造紙
- ・画用紙(白・色)
- ・板目表紙
- ・中質紙(B4)
- ・フェルトペン
- ・色鉛筆
- ・折り紙
- ・割り箸
- ・セロハンテープ
- ・輪ゴム

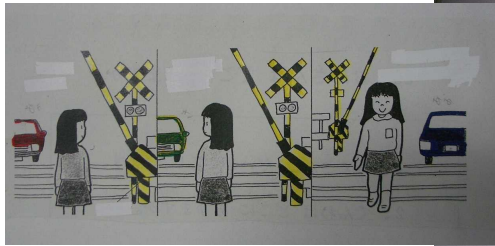
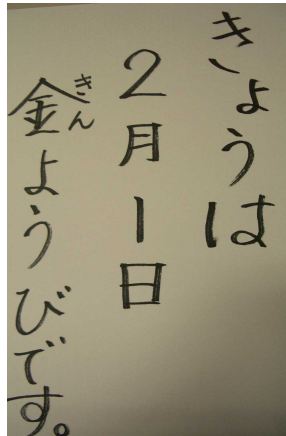
日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
A 1	初期指導	小学生 低学年	『にほんごをまなぼう』 5 きをつけて

1. 目標 危険を知らせる言葉を場面に応じて使うことができる。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (3)	1 カレンダーワークをする。 ・今日は○月○日△曜日です。	・「ついたち,」「ふつか」「とおか」「はつか」などの特別な言い方は繰り返し指導する。	カレンダー シール
展開 (37)	2 「きをつけて」を読む。 ①信号を提示し、進めと止まれの意味を確認し、動作化する。 ・赤のとき→止まれ ・青のとき→進め ②とびだし ③だいじょうぶ ④道路にとびだしは× ⑤ふみきり	・場面に合わせて自由に発話させる。	実物投影機 信号の絵 右・左のプラカード 場面の絵
終末 (5)	3 学習のまとめをする。 「信号の赤・青」「右・左」の確認 4 明日は○月○日▲曜日です。		カレンダー



日本語指導略案

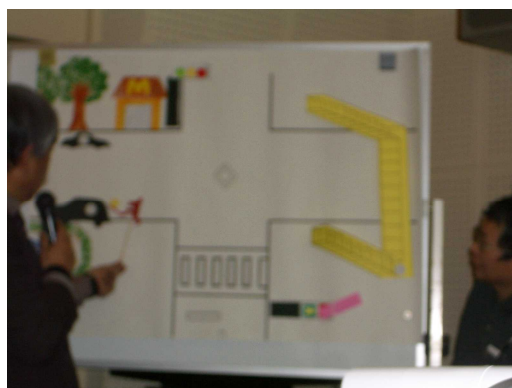
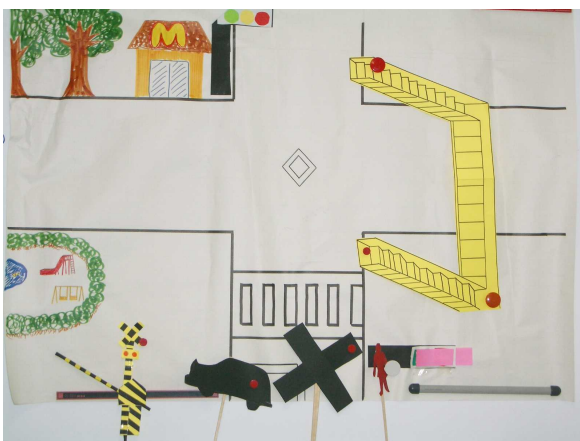
グループ	日本語力	対象	課題及び教材
A2	初期指導	小学生 低学年	『にほんごをまなぼう』 5「きをつけて」

1. 目標 交通ルールを知り、安全な生活をおくることができる。
2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	1 前回学習した交通安全に関する基本的な用語の名称の確認をする。 ・提示した絵の名称を答える。 信号 (しんごう) 横断歩道 (おうだんほどう) 歩道橋 (ほどうきょう) 踏み切り (ふみきり)	・児童が見やすいように絵を提示する。 ・はっきりと発声できるように指導する。	ペープサート 信号 横断歩道 歩道橋 ふみきり
展開	交通ルールを知って、安全な生活を送ろう。		

<p>(30)</p>	<p>2 交通安全に関する用語の役目を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示した絵（信号）の名称を答える。 その役目を教師と確認する。 信号…「赤」は止まれ、「青」は進め 赤信号で渡っている場面を見る。 「あかは、ダメ。とまれだよ。あぶない。」 青信号で渡っている場面を見る。 「あおは、いい。すすめだよ。あんぜん。」 ・提示した絵（横断歩道・歩道橋）の名称を答える。 その役目を教師と確認する。 道路は、横断歩道や歩道橋を使って渡る。 横断歩道は、「右・左」を確認してから渡る。 道路を横断している場面を見る。 「どうろをわたっては、だめ。あぶない。」 横断歩道や歩道橋を渡る場面を見る。 「いい。あんぜん。」 ・提示した絵（踏み切り）の名称を答える。 その役目を教師と確認する。 踏み切りは、遮断機が下りているときはわたれない。 踏み切りは、「右・左」を確認してから渡る。 遮断機が下りているのに、横断している場面を見る。 「おりているときは、だめ。あぶない」 「あがっていたら、いい。あんぜん。」 遮断機が上がっているが、そのまま横断している場面を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役目を確認する際は、模倣的に動作化して、緊張感を出すようにする。 ・日本では、信号を守らなくてはいけないということを指導する。 <p>○「右・左」を指導する際に、「上・下」「前・後ろ」の言葉も確認するようにする。</p>	<p>ペープサート 信号 ○×マーク</p> <p>ペープサート 横断歩道 歩道橋 ○×マーク</p> <p>ペープサート ふみきり ○×マーク</p>
-------------	--	--	--

	<p>「右・左をみないから、だめ。あぶない」</p> <p>遮断機が上がり、右・左を確認してから横断している場面を見る。</p> <p>「いい。あんぜん。」</p>		
終末 (10)	<p>3 実際に学校の近くの交差点を交通ルールの確認をする。</p> <p>横断歩道を渡る。(信号あり・なし)</p> <p>歩道橋を渡る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に、横断歩道を渡る練習をする。 ・その際、名称や役目の確認を声に出して行う。 ・安全なときは「いい。」、危険なときは「だめ。」を声に出して言う。 	<p>ペープサート</p> <p>○×マーク</p>
<p>交通安全の基本的な用語の役目を知り、 安全の道路を歩くことができる。</p>			



日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
B	初期指導	小学生 上学年	『ひろこさんのたのしいにほんご』 36 お母さんはどこにいますか。

1. 目標 場所や存在を尋ねることができる。

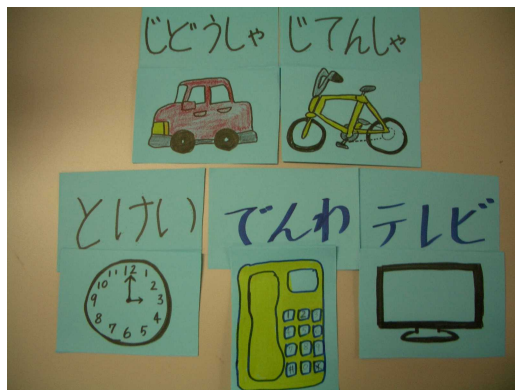
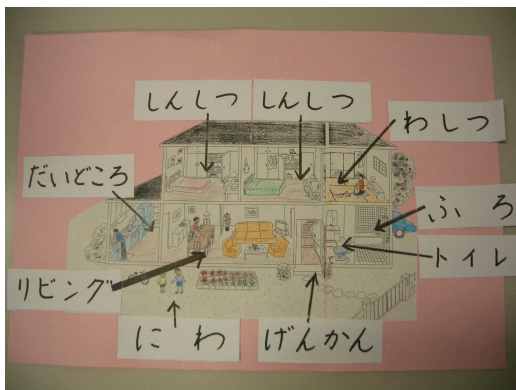
「どこに…いますか。」「どこに…ありますか。」

「…は いますか。」「はい。います。」「いいえ。いません。」

「…は ありますか。」「はい。あります。」「いいえ。ありません。」

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (15)	<p>1 フラッシュカードを使い、発音の練習をする。</p> <p>2 「とけい」「じてんしゃ」「じどうしゃ」の文字を書く。</p> <p>3 同じカードを使い、神経衰弱ゲームを行う。</p> <p>4 取ったカードを用いて、「…います。」「…あります。」の使い方を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙のカードを用意し、楽しみながら学習を始められるようにする。 ・濁音、撥音、拗音、長音の表記を確認する。 	カード
展開 (25)	<p>5 家を表した絵を提示し、それぞれの場所の名前を知る。</p> <p>6 基本の文型に場所と名前を当てはめて繰り返し言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場所の名前のカードをはっておく。 ・繰り返し発音し、基本の文型表現に慣れさせる。 ・役割を入れ替えて練習させる。 	家の絵 カード 基本文型
終末 (5)	<p>7 今日学んだ文型を使った文を読み、振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文を繰り返し読ませる。 	



日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
C	教科学習に向けての指導 (国語科)	小学生 4年生	「花を見つける手がかり」

1. 目標 三つめの実験について、詳しく読み取ることができる。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (3)	1 前時の学習を振り返る。 ・何のための実験か思い出す。	・何のための実験か確認させる。(形式段落⑩)	
展開 (37)	2 学習課題をつかむ。 三つめの実験について調べよう。		

	<p>3 形式段落⑪を読む。 （リライト教材）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のための実験か。 花の色か 形か ・用意した物は何か。 四角い色紙 前と同じ四種類 <p>4 形式段落⑫を読む。 （リライト教材）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果はどうなったか。 紙なのにちょうは集まってきた。 もんしろちょうは色紙を花だと思っている。 <p>5 形式段落⑬を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色別の集まり方を実際にやってみる。 ・この実験からいえること。 もんしろちょうは色で花を見つけている。 <p>6 ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・⑩段落を振り返るようにする。 ・実際の色紙を見せて理解を深める。 （児童に色を選ばせて確認する。） ・実際に色紙の上にもんしろちょうの絵を置かせてみて、理解を深める。 ・ワークシートに学習のまとめをさせる。 	<p>リライト教材</p> <p>赤・黄・青・紫の四角い色紙</p> <p>四角い色紙 ちょうの絵</p> <p>ワークシート</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>7 ⑪⑫⑬を音読する。</p>		

⑩つぎの実験^{じっけん}では、花の代わりに、四角い色紙を使います。色紙に集まれば、花の形ではなく、色だけで、花を見つけていることになります。用意^{ようい}した色は、前と同じ四種類^{しゅるい}です。もしろちようは色紙を花だと思うでしょうか。

⑪いよいよ、二百ぴきほどのもしろちようを放してみました。ただの紙なのに、やはり、ちようは集まってきました。むらさきの色紙や黄色の色紙に止まったものもいます。もしろちようは、色紙を花だと思っているようです。



ワークシート

- 一 () を調べるために、() を使った実験をした。
- 二 「もしろちようは、() だと思っているようだ。」
- 三 「この結果からももしろちようは、() ということがわかった。」

※この中から選^{えら}んで書きましょう。

色で花を見つけている

色紙を花

色か形

四角い色紙

日本語指導略案

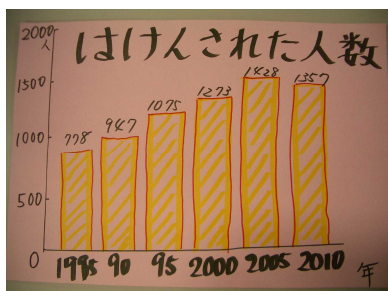
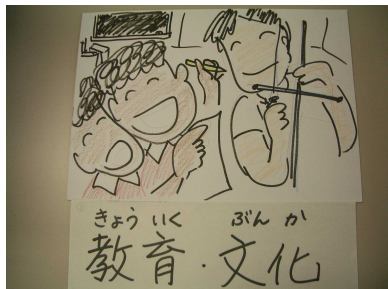
グループ	日本語力	対象	課題及び教材
D	教科学習に向けての指導 (社会科)	小学生 6年生	「世界の未来と日本の役割」

1. 目標 日本が世界の国々の発展のために、青年海外協力隊を政府開発援助の一環として、送っていることを理解し、その具体的な活動を知る。グラフや写真などの資料を読み取る力をつける。

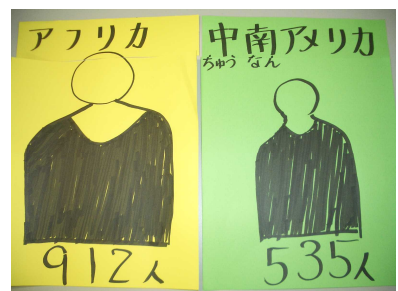
2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	<p>1 前時に見たビデオを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人が様々な国や地域に行って、そこの人々のためにがんばっていた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 青年海外協力隊について調べよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊は、国のお金で派遣されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオの一場面を写真で見せる。 ・ODAについて母語で説明する 	写真パネル
展開 (35)	<p>2 どのくらいの人たちが行っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣者数の推移のグラフを読み取る。 <p>3 どんなどころに派遣されているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣されている図を見て、どこが多いか予想する。 ・アジア・オセアニア・アフリカ 中南アメリカ・中東から考える。 <p>4 どんな協力をしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力隊の写真を読み取る。 高校生に教えている。 病院でリハビリをしてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入されている数、変化の様子に着目させる。 ・地図資料の読み方を支援する。 ・派遣者数と地域名をぬいた資料を見せて考えさせる。 ・地域名は教えて、どこに多く派遣されているかを予想させる。 ・写真を見せて、どんな仕事か考えさせる。 ・「派遣された人たちの職種」のグラフから 	資料

	畑で働いている 柔道を教えている。 (写真の簡単な説明を書く。) 職種の円グラフの「教育文化」 「保健衛生」などの項目と結びつ ける。	項目をカードにした ものをはりつける。	
終末 (5)	5 最後に「セネガルで活動した 清水さんの話」を読み、青年海 外協力隊の仕事を具体的に理解 する。		清水さん の話



日本の()は
こまっている人を()
ために()で
かつやくしています。



日本語指導略案

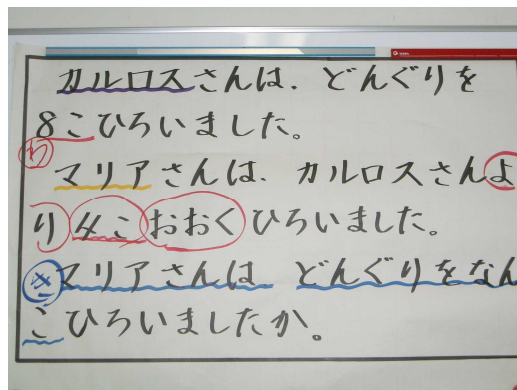
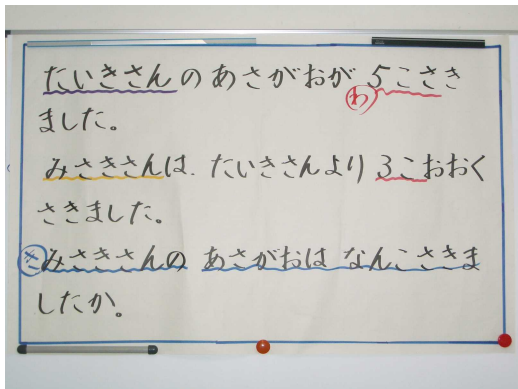
グループ	日本語力	対象	課題及び教材
E	教科学習に向けての指導 (算数科)	小学生 1年生	「おいほう すくないほう」

1. 目標 具体的な操作を通して、「～よりおおく」という言葉の意味を正確にとらえて、立式・計算することができる。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	1 フラッシュカードを用いて既習を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 数の概念 2つの数 数の比較（おおい・すくない） ちがいはいくつ 	・リズムよく行う。	フラッシュカード
展開 (35)	2 問題文を読み、解決の見通しを持つ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>たいきさんのあさがおが5こさきました。 みさきさんは、たいきさんより3こおおくさきました。 みさきさんのあさがおはなんこさきましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 問題文を音読する。 新しくでてきた言葉を確認する。 「～より おおく」 「わかっていること」→赤の波線 「きいていること」→青の波線 <p>3 具体的な操作を通じて、問題解決をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 朝顔のイラストを並べさせる。 <p>たいき ●●●●● みさき ●●●●● ○○○</p> <ul style="list-style-type: none"> 何算を使えばよいか確認する。 立式 $5 + 3 = 8$ 答え 8こ </p> <p>4 適用問題をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習との比較をする。 「今日の新しい言葉」として教室掲示をする。 <ul style="list-style-type: none"> 実際に操作させることにより、視覚的にイメージできるようにする。 	<p>問題文</p> <p>操作のイラスト</p> <p>問題文</p>

	<p>かるろすさんは、どんぐりを8こひろいました。 まりあさんは、かるろすさんよりも4こおおくひろいました。</p> <p>まりあさんは、どんぐりをなんこひろいましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックを操作して、ノートに○図を書かせる。 ・立式させる。 $8 + 4 = 12$ <p>こたえ 12こ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級での学習を意識し、数図ブロックや○図を使用した方法を行わせる。 	<p>数図ブロック</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>5 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「～より おおく」のときは たしざん を つかう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言葉を使いながらまとめをする。 	



日本語指導略案

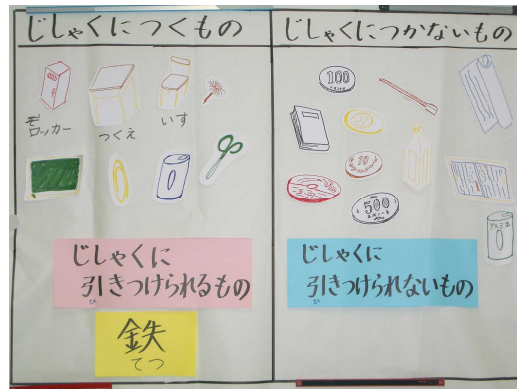
グループ	日本語力	対象	課題及び教材
F	教科学習に向けての指導 (理科)	小学校 3年生	「じしゃくのふしぎをしらべよう」

1. 目標 磁石につくものをつかないものを意欲的に見つけることができる。
磁石につくものは、鉄であることを知る。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (10)	<p>1 磁石での体験を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆箱や、ランドセルについているよ。 ・ 黒板のマグネットに使われているよ。 <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">磁石につくものを見つけよう。</div> <p>3 磁石に何がつくと思うか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気を通すものは、磁石につくよ。 ・ 紙やガラスはつかないと思うよ。 ・ 十円玉もつくと思うよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの物で磁石使っているものに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの経験から、どんなものがつか予想させる。 	マグネット ランドセル など
展開 (25)	<p>4 教室の中にある物で確かめてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロッカーや机の足はついたよ。 ・ 画鋏やクリップはついたよ。 ・ はさみや空き缶もつくよ。 ・ つかない空き缶もあった。 ・ 窓の枠や黒板の枠はつかない。 ・ 十円玉はつかないよ。 ・ 磁石同士もついたよ。 ・ 逃げていった磁石もあったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンに磁石を近づけてはいけなことを知らせる。 ・ お金など児童が調べたいと思う物を前もって用意しておく。 	はさみ・お金・画鋏・クリップ など

<p>終末 (10)</p>	<p>5 磁石につくものとつかないものをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙やガラスは磁石につかない。 ・つく物とつかない物がある。 ・磁石同士でも、くっついたり離れたりするものがある。つく物は、引きつけられる。 ・つかない物は、引き付けられないとあらわすことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石につく物とつかないものを絵カードでまとめる ・絵カードから物の名前を知る ・磁石同士については次時の学習につなげる ・磁石に物が引き付けられる様子を実物投影機で見せたり、動作化させたりして言葉の理解を深める ・磁石につく物は、鉄であることを知らせる 	<p>絵カード 実物投影機</p>
--------------------	---	---	-----------------------



日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
G	初期指導	中学生	『こどものほんご』 9 さんかん日

1. 目標 「います」「あります」の違いを理解することができる。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (10)	1 ディクテーション ・「バス、ピアノ、ボール、ロッカー、サッカーボール」などのかたかな語を聞き取って書き、書いたものを答えあわせで読む。	・1回目普通の速さで、 2回目にゆっくり、 3回目に全部通して読む。	かたかな語カード
展開 (30)	2 「います」「あります」の違いを学習する。 ・れんしゅうしましょう1・2 ・いろいろなものの絵カードを「います」か「あります」に分類する。 3 位置を表す言葉を学習する。 ・「上、下、横、中、前、後ろ、間、近く」に加えて、「右、左、側」も一緒に学習する。 ・いましょう1の言葉を使って、「～の～に～があります（います）」を練習する。 4 助詞「も」の全面否定の使い方を学習する。 ・「～（疑問詞）も～ない」 ・れんしゅうしましょう3 ・れんしゅうしましょう4・5	・教科書の絵や絵カードを使って、確認する。 ・絵を使って位置関係を理解させる。 ・何も存在しない時の言い方についても、絵で確認しながら言えるようにする。	絵カード

<p>終末 (10)</p>	<p>5 別の絵を見てどこに何があるか(いるか)、物や人の存在位置を言う。 ・宿題 ①文で書いてくる。 ②家の中に、どこに何(だれ)がある(いる)か書いてくる。</p>	<p>・存在と位置関係に気をつけて言うよう、助言する。</p>
--------------------	--	---------------------------------



日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
H	教科学習へ向けての指導 (国語科)	中学生 1年生	「言葉の上達は競技を上達させる」

1. 目標 資料を基に、自分の言葉でショートスピーチをすることができる。
2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (15)	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の目標を確認する。 2 前時の復習をする。 3 原稿に入れる文章条件として(最初)これから「日本語の上達は～させる」というタイトルのスピーチをします。 (スピーチの中に)私がこう考えるようになったのは～が関係しています。という文を入れる。 (最後)これでスピーチを終わります。 4 教師のモデルスピーチを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時内容から前時の復習を確認する。 ・ 発表の注意を述べる。 3つの条件を模造紙に書いて、説明する。 ・ モデルスピーチを読む。 	<p>原稿条件を書いた模造紙</p> <p>モデルスピーチ資料</p>
展開 (20)	<ol style="list-style-type: none"> 5 発表の練習をする。 (スピーチ原稿のチェック) 6 スピーチの発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P君の発表 ・ W君の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原稿チェックや発表練習の支援(大きな声で堂々と)をする。 ・ 待っている生徒の聴き方や発表のアドバイスをする。 ・ 履歴カードの出し方などに気をつけさせる。 	履歴カード
終末 (15)	<ol style="list-style-type: none"> 7 発表の評価を記入する。 (自分のこと、友達のこと) 8 それぞれ評価の発表をする。 9 先生のまとめを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書き方に注意して、記入をさせる。 ・ 発表のポイントについて助言する。 	評価カード

1. これから～というスピーチをします。
2. 私がこの考えるようになつたのは、
～が関係しています。
3. これでスピーチをおわります。

名前	王
国	中国
歴	3ヶ月

